

2015 年 12 月 7 日
環境社会配慮助言委員会委員長 村山 武彦
担当ワーキンググループ主査 松行 美帆子

カメルーン国ヤウンデ-ブラザビル国際回廊整備事業（ミントム-レレ間）
及びコンゴ共和国ヤウンデ-ブラザビル国際回廊整備事業（センベ-スアンケ間）
（有償資金協力）
環境レビューに対する助言

助言案検討の経緯

ワーキンググループ会合

- ・日時：2015 年 11 月 13 日（金）14:01～16:46
- ・場所：JICA 本部（会議室：1 階 111 会議室）
- ・ワーキンググループ委員：石田委員、平山委員、松行委員
- ・議題：カメルーン国ヤウンデ-ブラザビル国際回廊整備事業（ミントム-レレ間）、及びコンゴ共和国ヤウンデ-ブラザビル国際回廊整備事業（センベ-スアンケ間）環境レビュー段階の助言案作成
- ・配付資料：
 - 1) Environmental and Social Impact Assessment (Republic of Cameroon)
 - 2) Environmental and Social Impact Assessment (Republic of Congo)
 - 3) Resettlement Due Diligence Report
- ・適用ガイドライン：国際協力機構環境社会配慮ガイドライン（2010 年 4 月）

全体会合（第 64 回委員会）

- ・日時：2015 年 12 月 7 日（月）14:30～17:06
- ・場所：JICA 本部（会議室：1 階 113 会議室）

上記の会合にて助言を確定した。

助言

全体事項

1. 生物多様性保全コンポーネント及びコミュニティ開発支援コンポーネントが受益者のニーズに即していること、並びに、彼らがおかれている社会経済状況の改善になること、さらに、彼らに裨益するコンポーネントであることを確認し、必要に応じてアフリカ開発銀行及び両国政府とともに両コンポーネントに関わるその他の対策の必要性を検討すること。
2. 生物多様性保全コンポーネント及びコミュニティ開発支援コンポーネントを実施する組織・機関が十分な実施能力を備えているか確認を行うこと。

環境配慮

3. ポーチング（密猟）の増加が懸念される。密猟の現状把握と将来予測を行い、必要に応じて緩和策の検討について提言すること。

社会配慮

4. 苦情受付窓口に容易にアクセスできることを確認すること。
5. 工事中及び供用後の狩猟への影響を確認すること。

以上